
陰の僕と武器な彼女

ハル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

陰の僕と武器な彼女

【Nコード】

N0948BA

【作者名】

ハル

【あらすじ】

バイオテロが起こり、世界中の国家が崩壊してから5年。テロリストの壊滅と世界の平和を願って、陽と京を中心に組織を作り上げる。敵地に武器を奪いに行き、そこにいたのは一人の少女。その少女と京には特殊な力があり、その力を使いテロリストを壊滅へと導いていく。

『沈まぬ太陽』 結成

「父さん、何するの？」
僕は今、ベッドに拘束されている。

「京、怖がることはないんだよ。これはただの栄養剤なんだから嘘だ。そんなことで、拘束なんてするわけがない。そんなことは10歳の頭でも分かる。」

そうしてる間に、父さんは僕の腕に注射を始める。

「うわぁああぁぁ」

あまりの激痛に大声で泣き叫んでしまう。

「ちつ、偶然できたもので、調べても全く成分が分からなかったが、やっぱり毒の類だったのか」

どうやら、今注射されたのは毒だったらしい。
酷いよ父さん。僕は父さんの子供だったのに。

「まあ、いい。もともと利用価値なんて期待してなかったからな
それって、さっきの薬のこと？それとも僕のこと？
でも、もう声も出せないくらい苦しい。」

「明日は祭だからな、実験に協力してくれたお礼に、ワクチンも打

つといてやる。さっきの薬で死ななかつたらラッキーだと思いな
父さんがまた注射をしてくる。
全身が痛くて、もう痛みなんて感じない。

「じゃあな京、また会えたらいいな。生きてたらだけだな」

父さんは笑いながら、部屋を出て行く。

ワクチンを注射され、心臓が一度大きく鼓動し、更なる激痛に意識
が遠くなる。

「んん、嫌な夢を見たな」

僕はもうあれから5年が経って15歳になっている。

「どうした京？またあの夢を見たのか？」

「あっ、うん」

話しかけてきたのは、親友の陽。5年前からずっと一緒だ。
あの日は、父さんに人体実験された日。

「でも、どうせ京の親父もあのテロで死んでる。気にするな」

「……そうだね」

違うよ陽。僕にワクチンを打ったのは父さんだ。その父さんが死んでるわけがない。

そして、あのテロと言うのは、世界規模でのバイオテロのことだ。

僕に人体実験した10日後に世界中でバイオテロが行われた。

新種のウイルスで、感染力と致死性が強く、世界の人口の一万人に一人しか生き残れなかった。

そんな悪夢のせいで、各国の国家や企業は崩壊していった。

生き残った人達も、家族は自分だけの者が多く、無気力に生きる者がほとんど。

生き残った人達で働いているのは、食料生産をする人達か、テロリスト達が自分達のために立ち上げた軍事関係の企業に就職するかで、他の者はその日暮らしがやっとだ。

「京、来週だが俺らの初仕事をやろうと思ってる」

陽がしだしたのは、ずいぶん急な話だ。

まあ、僕も一応はNo.2なのだから、リーダーの陽からのこのような提案も、当然と言えば当然なのだが。

「前から考えてたにしても、ずいぶんと急だね」

「まあな。それに、近々、この近くにあるテロリストの支部に武器の搬入があると聞いた。そこで、武器の増強を行う」

人々はテロ以降、被害のない国を求め、5年のうちに日本に落ち着いた。
よって、世界の生き残りのほとんどは日本にいる。
もちろんテロリスト達も。

「で、作戦は？」

陽はニヤリと笑いながら続ける。

「もちろん考えてるぞ」

僕も悪役になった気分でニヤリと笑う。

「聞かせてもらおうか」

「俺と京、後はフィオとカインで潜入する。その間に大悟を中心に戦車とかを使って陽動。でどうだ？」

陽は誉められるのを期待したような表情になる。

「まあ、いいんじゃない。妥当な作戦だと思うよ」

陽は嬉しそうな顔をした後に、考え込む仕草をする。

「陽、どうしたの？」

「ん？いやな、大事な事を考えてねえなあって思ってたさあ」

陽が考える大事な事って、何なのだろう。

凄く気になる。

「大事なことって？」

「俺達の組織ってさあ、名前ねえよなって思ったんだ」

確かに、今まではそれほど重要性を感じなかったもので、全く気にしてなかったが、名前があった方が組織っぽい。

「来週までに考えればいいんじゃない？」

「京も考えとけよ！」

「分かってるって」

それから、2人で組織の中枢に当たる広い場所に移動する。

組織は偶然発見した、日本軍が秘密裏に、造っていた地下基地を使っている。

その軍隊もないから、誰にも迷惑はかかっていない。

そして、そこには非常時に備えて蓄えられてはいた武器があり、発電施設までついているので、基地にするには最適な場所だったのだ。

司令室兼溜まり場に向かうと、陽が言っていた潜入メンバーと、大悟とリリーがいる。

そして、陽が武器奪取の作戦を言い、全員の了解を得る。

リリーは司令室から、全員に戦況などを伝える役目。

最後に組織名を募集して作戦の報告は終了。

「そついえばさあ、陽、武器が搬入されるんなら、その搬入してくるトラックを襲えばいいんじゃない？」

「いや、搬入はトラックじゃなくて、基地に直接空路で搬入されるらしい。だから、搬入された武器を武器庫に運ばれてから、トラックと武器を奪って逃げる」

陽は馬鹿っぽいのに、意外といろいろ考えているらしい。

「じゃあ、僕の命も全てを陽に預けるよ」

「任せとけ！って言いたいが、危ない時は自分の命を優先させるよ」

「仲間の命が危ない時は別だよ？」

言うと、陽は笑いながら述べる。

「俺もその場面なら、仲間の命を優先させるだろうから、反論できねえ。まあ、出来る限りで自分を大事にな」

「分かってるよ」

そして、一週間が経ち、潜入作戦の日になる。

「今日言おうと思って、黙っていたが、組織名が決定した。組織名

は『沈まぬ太陽』」

陽にしては、頑張ったんじゃないかなって思う。
なかなかいい。

陽のことだから、名前の意味は、無気力に生きてる人達の道標。消えることのない、太陽のように大きな道標とかそんな感じだろう。

「じゃあ、『沈まぬ太陽』の初陣だ」

リリーと司令室のメンバー以外が基地を後にする。

『沈まぬ太陽』 結成（後書き）

新作です。

近未来系は始めてなので、アドバイスとか欲しいです。

誤字・脱字・質問があれば感想欄までお願いします。
評価、感想、お気に入り登録よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0948ba/>

陰の僕と武器な彼女

2012年1月2日10時49分発行